

令和3年度 検討テーマ一覧

部会	R3年度 検討内容		
	検討テーマ	理由	協力してもらいたい部会
病院部会	緊急時の受け入れについて (継続)	今年度はコロナウイルスにより、発熱がある場合のトリアージやコロナウイルス陽性患者発生時の搬送など、緊急時の受け入れの際にも影響があった。また現在は、コロナウイルス患者が回復後、後遺症や持病等で退院ができず、病床が逼迫するといったことも起きており、後方支援をどのように行っていくかも課題となっている。そのような状況を踏まえて引き続き、重要課題のため、検討していくこととする。	
医師会部会	在宅医療の充実に向けて	引き続き、このテーマに取り組む必要があると考えるため	
歯科医師会部会	多職種連携	令和2年度、中断してしまった事項を再度検討しなおす為。	
薬剤師部会	医療用麻薬の取り扱い	在宅患者訪問における麻薬管理 法令・省令に基づく麻薬小売業者間譲渡 他	
訪問看護ネットワーク部会	災害医療における多職種連携	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナも災害と捉えて、訪問看護ステーション間の事業所連携だけでなく、病院、施設、ケアマネジャーとの連携をシステム化して市民の安全で穏やかな暮らしを守りたい。 ・サルビー見守りネットを活用した情報共有のあり方を検討したい。 ・医療依存度が高い利用者の水害地震発生時における、非常電源が確保できる避難場所のマッピングをしたい。 ・事業所と利用者それぞれが災害発生時の行動マニュアルを作成して、迅速に避難できる環境整備をしたい。 ・コロナ禍において、施設入所や入院すると家族と面会できないため介護と医療が連携して、市民が在宅医療を活用して、自宅で介護支援を受けながら治療を継続して、自分らしく最期まで過ごせる環境を整えたい。 	すべての部会
リハビリネット部会	人生の最終段階におけるリハビリテーションのこれから	人生の最終段階におけるリハビリテーションの有用性は認められているものの、ターミナル期においては看護・介護の優先順位が高まり、リハ専門職の関わりが少ないのが現状である。人生の最終段階をどう生きるかをリハ専門職としていかに支援するか、リハビリネット部会として年間を通して検討していきたい。 他職種間での連携も重要であるが、リハ職種間での連携(急性期～在宅)についても改めて検討が必要であると考え。また、コロナウイルス感染拡大に伴いオンラインの活用が加速していることを受けて、人生の最終段階におけるオンラインの活用方法も検討していきたいと良いと考える。	
ケアマネット部会	看取り期における多職種連携	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においては、病院や施設等の面会制限などで退院前カンファレンスやサービス担当者会議等の開催が難しい場合もある。 ・在宅での看取り体制を整え、切れ目のない在宅看取りの支援を行う上で、多職種連携は欠かせない。 ・ACPなど意思決定支援における多職種間の情報共有の取り組みを考えていく必要がある。 	すべての部会
小規模多機能部会	小規模多機能ホームの役割、活用方法について事例を通して地域の現状を考える	小規模、看多機の役割や機能がわかりにくいので、引き続き周知に努めていく。研修会を中心に広く知ってもらうための取り組みを検討する。	

部会	R3年度 検討内容		
	検討テーマ	理由	協力してもらいたい部会
デイネット部会	「本人が望む場所で、自分らしく最期まで今を生きる」ため通所系サービス事業所が出来ること	安城市として推進していく「看取り体制:本人が望む場所で、自分らしく最期まで今を生きる」場所がご自宅であった場合、在宅サービスの私ども「通所系サービス」のご利用も視野に入ると思われるが、「看取り体制」に対しての考え方の相違や、不安などがあると思われる。部会を通じて、「自分らしく最期まで今を生きる」ことができるように理念を理解し、体制を整備できるようにグループワークなどを通じて、情報共有をしていきたい。	訪問看護部会、ケアマネット部会
ヘルパーネット部会	安全に身体介助を提供する	訪問介護員の高齢化に伴い、安全な身体介護の提供が課題となっている。利用者に安全・安心した介助をするためには、どのような介助方法が良いのか。その他、介助する側の負担が軽減できる介助方法を共有していく。	
施設部会	①施設間での情報共有・連携強化 ②感染対策の現状と今後	○施設間での情報共有や連携を図ることで、お互いの施設が相談する機会を持つ事ができ、市内全体の施設運営の底上げに繋がっていく。 ○感染対策について施設間での情報共有を図り、安定した施設運営や施設サービスが行えるよう各施設が協働し相乗していけるよう連携していきたい。	
グループホーム部会	本人、家族それぞれの思いを把握しお互いの思いが尊重されるような看取りとなるために、業務や事例を通して考える。	看取りを考えていく中で、本人、家族の気持ちをどのようなタイミングや方法で聴き取り対応しているかを部会内で共有し、より良い方法を検討することで、看取りに関する本人、家族の意向の共有を適切に支援できるようにしたい。	
保健福祉部会	○自立支援について。 ・R2年度自立支援サポート会議からの課題整理と課題解決のための実践。	○サポート会議からの課題整理の取組 ・当事者の自立支援にあたり、多職種が取り組むべき課題を整理し、各自の取組に繋げる。 ・「自立支援とは」を改めて共有し、各専門職の関わり方などについて繰り返し認識できるようにする。 ・より効果的な会議とするために、部会において自立支援サポート会議の振り返りを行う。	リハネット部会との協力